

1 項目版共同体感覚尺度の作成

橋口誠志郎*

Development of a Single Item Social Interest Scale

Seishiro HASHIGUCHI*

The purpose of this study is to construct a Single Item Social Interest Scale (SISIS) and to examine the reliability and validity. The participants were 240 under graduate student. The SISIS score (T1) was positively correlated with the SISIS score (T2). The SISIS score was positively correlated with Adolescence Social Interest Scale score and Positive Affect Scale score. The SISIS score was not correlated with Subjective Happiness Scale score. The findings provide evidence for the reliability and validity of the SISIS.

key words: social interest, Individual psychology, scale development

問題と目的

共同体感覚は個人心理学において中核をなす概念である (Ansbacher & Ansbacher, 1956)。共同体感覚を育成することはカウンセリングや教育の目標とされている (会沢, 2009)。1970 年代に入り共同体感覚を測定する尺度が作成されるようになった。海外において使用されている尺度としては、以下の3つがある。(1) 共同体感覚を「4つのライフタスクの各領域において貢献と協力を厭わないこと」と定義して作成された Social Interest Index (Greever, Tseng & Friedland, 1973) (以下 SII), (2) 共同体感覚を具体的には定義せずに, Sulliman と Adler 派の治療者たちとで項目案を作成して開発された Sulliman Scale of Social Interest (Sulliman, 1973) (以下, SSSI), (3) 共同体感覚を具体的には定義はしていないものの「他者の関心または他者の心身の健康に対する関心」を測定するという観点から項目が作成された Social Interest Scale (Crandall, 1975) (以下, SIS), である。一方, 国内においては高坂 (2011) が, 私は共同体の一員だ, 共同体は私のために役に立ってくれるんだ, という感覚である「所属感・信頼感」, 私は私のことが好きだ, という「自己受容」, 私は共同体のために役に立つことができる, という感覚である「貢献感」の3つの下位尺度から構成される青年版共同体感覚尺度を作成している。しかしながら以上4つの尺

度は信頼性と妥当性は検証されているものの効率性が低いという問題がある。共同体感覚という1つの構成概念を測定する際に SII は32項目, SSSI は50項目, SIS は24項目, 青年版共同体感覚尺度は22項目を必要としているからである。調査協力者への負荷や調査において他の尺度との併用を考慮すると, より少ない項目で共同体感覚を測定する尺度を開発することは意義があると考えられる。SII, SSSI, SIS, そして青年版共同体感覚尺度は多次元尺度であるが, 共同体感覚の提唱者である Adler は共同体感覚が高い人は「他者に何を与えることができるか」と考えながら生活をしていると述べている (Adler, 1973 高尾訳 1987), また野田 (2014) は共同体感覚を「これはみんなにとってどういうことだろう。みんながしあわせになるために私はなにをすればいいだろう」と定義している。さらに岸見 (1999) は「自分がどう貢献できるかと考えること」が共同体感覚であると述べている。以上を踏まえると共同体感覚の中核的な意味は「みんなのために私ができることは何だろうと考えながら生活すること」であると考えられる。そこで本研究では共同体感覚を「みんなのために私ができることは何だろうと考えながら生活すること」と定義し1項目版の共同体感覚尺度を作成することを目的とする。

本研究における仮説は以下の3つである。1項目版共同体感覚尺度得点は青年版共同体感覚尺度得点と正の関連を示す (仮説1)。Gray & Karin (2006) は共同体感覚はポジティブ情動と正の関連を示すことを報告している。このことから1項目版共同体感覚尺度得点はポジティブ情動尺度得点と正の関連を示すと予想される (仮説2)。向後 (2015) は共同体感覚は幸福感と正の関連を示すことを指摘している。このことから1項目版共同体感覚尺度得点は主観的幸福感尺度得点と正の関連を示すと予想される (仮説3)。

方 法

調査時期 2015年10月から11月であった。

調査協力者 α 大学, β 大学, γ 大学の学部生であった。協力者のうち, 欠測値のあったものを除いた240名 (男性119名, 女性121名) を分析対象とした。2回の調査に参加したものは126名であった。

調査内容 (1) 1項目版共同体感覚尺度, 教示: あなたは以下に書いてあるようなことを, どのくらい考えて生活していますか。当てはまる数字に1つ○をつけてください。項目: みんなのために私ができることは何だろうか。選択肢: いつも考える (5点), よく考える (4点), ときどき考える (3点), あまり考えない (2点), まったく考えない (1点), 得点が高いほど共同体感覚が高いことを表す。(2) 青年版共同体感覚尺度 (高坂, 2011)。なお本研究では高坂 (2011) が合計得点でも検討していることを踏まえて合計得点を用いた。(3) ポジティブ情動尺度 (佐藤・安田,

* 東京都教育委員会

Tokyo Metropolitan Board of Education, 2-8-1 Nishisinyuku, Shinjyuku-ku, Tokyo 163-8001 Japan
現所属: 東京大学大学院教育学研究科
Graduate School of Education, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8654, Japan

2001), (4) 主観的幸福感尺度 (島井・大竹・宇津木・池見・Lyubomirsky, 2004) の 4 つの尺度を使用した。

倫理的配慮 回答は自由意思であること, 成績評価には関係がないこと, 統計的に処理をするため個人が特定されることはないことを表紙に記した。また口頭でも伝えた。信頼性の検証のため協力者の同定を行うことを目的として誕生日を 2 桁, 携帯電話番号の下 3 桁, 計 5 桁を利用した一時的な ID を作成してもらった。

結 果

信頼性の検討 再検査信頼性を検討するために 1 回目の 1 項目版共同体感覚尺度得点と 2 週間後の 1 項目版共同体感覚尺度得点の相関係数を算出した結果, 高い正の相関を示した ($r=.74, p<.001, 95\%CI [.64, .81]$)。

妥当性の検討 構成概念妥当性を検討するため 1 項目版共同体感覚尺度 (平均 3.23, 標準偏差 0.89) と青年版共同体感覚尺度の相関係数を算出した結果, 弱い正の相関を示した ($r=.35, p<.001, 95\%CI [.23, .46]$)。よって仮説 1 は支持された。構成概念妥当性を検討するため 1 項目版共同体感覚尺度得点とポジティブ情動尺度得点の相関係数を算出した結果, 弱い正の相関を示した ($r=.26, p<.001, 95\%CI [.15, .39]$)。よって仮説 2 は支持された。構成概念妥当性を検討するため 1 項目版共同体感覚尺度得点と主観的幸福感尺度得点の相関係数を算出した結果, 相関はみられなかった ($r=.07, p=.296, 95\%CI [-.06, .19]$)。よって仮説 3 は支持されなかった。

考 察

本研究の目的は効率性を備えた共同体感覚尺度を作成することであった。相関分析の結果, 信頼性と一定の妥当性を備えた 1 項目版共同体感覚尺度が作成された。介入研究などを行う際に協力者に負荷をかけない尺度が作成されたといえる。本研究の結果を踏まえると「みんなのために私ができることは何だろうか」と考えながら生活してみることが教育相談やカウンセリングの場面において具体的に助言することも可能である。

なお本研究において共同体感覚と主観的幸福感の関連がみられなかった。濱本 (2016) は共同体感覚はポジティブ感情を媒介して幸福と関連することを指摘している。このことを踏まえると, 今後の課題として共同体感覚と主観的幸福感の関連についてポジティブ感情を考慮した検討をする必要があると考えられる。

引用文献

- アドラー, A., 高尾利数 (訳) 1987 人間知の心理学 アルテ. (Adler, A. 1973 *Menschenkenntnis*. Frankfurt: Fischer Taschenbush-Verlag. (Original work published 1926))
- 会沢信彦 2009 教育相談の“ゴール” 共同体感覚をはぐくむ 千葉教育, 580, 32-33.
- Ansbacher, H. L., & Ansbacher, R. R. 1956 *The Individual Psychology of Alfred Adler: A Systematic Presentation in Selections from His Writings*. New York: Basic Books.
- Crandall, J. E. 1975 A scale for social interest. *Journal of Individual Psychology*, 31, 187-195.
- Gray, L., & Karin, L. 2006 Adlerian social interest and positive psychology: A conceptual and empirical integration. *The Journal of Individual Psychology*, 62, 207-223.
- Greener, K. B., Tseng, M. S., & Friedland, B. U. 1973 Development of the social interest index. *Journal of Counseling and Clinical Psychology*, 41(3), 454-458.
- 濱本裕之 2016 僕は幸せになるためにアドラー心理学に反論する Amazon Services International, Inc.
- 岸見一郎 1999 アドラー心理学入門 KK ベストセラーズ.
- 向後千春 2015 アドラー “実践” 講義—幸せに生きる— 技術評論社.
- 野田俊作 2014 Passage Plus アドラーギルド.
- 佐藤 徳・安田朝子 2001 日本語版 PANAS の作成 性格心理学研究, 9, 138-139.
- 島井哲志・大竹恵子・宇津木成介・池見 陽・Lyubomirsky S. 2004 日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale: SHS) の信頼性と妥当性の検討 日本公衆衛生誌, 51, 845-853.
- Sulliman, J. R. 1973 The development of a scale for the measurement of “social interest.” *Dissertation Abstracts International*, 34, 2914.
- 高坂康雅 2011 共同体感覚尺度の作成 教育心理学研究, 59, 88-99.

(受稿: 2016.11.24; 受理: 2017.5.16)